

粕谷和夫の観察日記より。秋分の日、八王子の某寺の本堂でオカリナコンサートがあったので聴きに行きました。開演より少し早めに寺に着き、庭園を覗いてみたら、シロバナマンジュシャゲが咲いていました。一株は花が終わり（写真左）、もう一株がシュウカイドウのピンクの花をバックにひっそりと咲いていました。

紅葉台



新聞

第207号

2025年
11月8日

発行人：関谷 孝

八王子駅からいちょうホールまで歩いてみる

粕谷和夫(八王子・日野カワセミ会)

今号(No.61)の「はちとぴ」の特集は「いちょうホール」、京王八王子駅またはJR八王子駅のどちらからでも市街地循環バスを利用すればホールまで簡単に行ける。しかし西放射線ユーロードは街路樹の見本市のような所、次から次へ種が変わる街路樹を鑑賞しながら歩いてみることをお勧めする。駅からホールまでは約1.5km。JR八王子駅北口を出るとマルベリーブリッジ、ここから西側のエスカレーターを降りると西放射線ユーロード。このロードには小さな三角広場が3カ所ある。

最初の三角広場には**シモクレン3本**が北側に並んでいる。春、他の花に先駆けて上向きの大きな花を咲かせる。花が紫色であることからシモクレン。みさき通りをこえると**ヤマボウシ**があり途中から**ハナミズキ**にかわる。この両種は兄弟でアメリカから渡ってきたハナミズキは4月中頃に開花、日本在来ヤマボウシはそれから約1ヵ月遅れて花が咲く。野猿街道の手前でイロハモミジが3本並ぶ。



第2の三角広場に**タイサンボク**が3本と**シダレヤナギ**が2本、ヤナギの下には「お帰りなさいDr.肥沼」の碑が立っている。タイサンボク(泰山木)は「ほうば味噌」で有名なホオノキと同じ

仲間。ホオノキが落葉樹であるのに対し、こちらは常緑樹、初夏になると、枝先に直径15cm以上もある、香りの強い大型の白花を咲かせる。大きな盃のような花姿から「大盃木」とも呼ばれ、「花が咲いてるもの、散り始め、蕾」の様子が1本の木で同時に見られる。

通りを渡ると**タムシバ1本**、**ハクモクレン1本**、**コブシ1本**、**ネムノキ1本**と続く。タムシバはコブシと同じ仲間。ここまで来ると右側の蔵が目に入る。ajirochayaの表示があり、蔵の前が手入れの届いた庭園風に整備され椅子も置かれていて「一休み」できる。この蔵の東側に細い路地があって、この路地をたどるとお茶の網代園、甲州街道の横山町3丁目のバス停だ。7月にこの原稿の取材でこの路地を歩いた時は**ノリウツギ**が白い穂の花を咲かせ、**ハナイカダ**の実が熟し、小さな池には**メダカ**が泳いでいた。

ユーロードの最後が3番目の三角広場、横山町公園になっている。**クスノキ3本**、**ヤマモモ5本**が並んでいる。

ここでスクランブル交差点を渡り「みずき通り」を進む。名前の通り**ミズキ**が街路樹として続く、以前は5月のゴールデンウィークの頃が開花期であったが、今は4月中頃には開花する。

イチョウホールに着くと**クスノキ2本**とそれより小ぶ

りの**イチョウ**が1本植えられている。市の木「イチョウ」にちなんでつけられた名前のイチョウホールにしてはホールの前のイチョウが小さく貧弱に感じてしまう。

粕谷和夫の観察日記



八王子の奥、**上川の里の田んぼ**で**稲の不耕起栽培**をやっていることは、この新聞で何回もお伝えしてきました。10月8日に稲刈りを行いました。今年の作柄は「豊作」でした。写真上は刈り取る直前の稲穂で、下はのこぎり釜で刈取り中の様子です。このプロジェクトの参加者は今年は3名、夏の酷暑の夕方の草取りが行われました。刈り取った稲束は今年も近くの上川口小学校に寄贈しました。



前日の稲刈りは私が仲間とやっている上川の里のたんぼでした。この写真は10月9日、毎月野鳥の定期カウントをしている高月の田んぼです。ほとんどの田んぼはコンバインで収穫されますが、一部は、**はざ掛け**で**天日乾燥**する田んぼもあります。その前に**ダイサギ**がきてポーズをとってくれました。



毎年10月の高月水田の野鳥定期カウントで、**野草のサクラタデ**の花に再会するのを楽しみにしています。今年も可愛い花を咲かせていました。9月の強烈な赤色のヒガンバナから10月にこの花への見事なバトンタッチです。モズの高鳴きも聞こえてきました。

秋になると急に目立つ大型の蜘蛛の**ジョロウグモ**が目立つようになりました。多摩川の河原でこのクモに捕まった**ミヤマアカネ**に出合いました。トンボは既に息はなくなり、じっとしていました。世の中は危険一杯ですね。



10月7日、千葉縣市川市の自然観察園に久しぶりに行ってみました。ここは谷戸になっていて、湿地帯の連続でハンノキが何本も生えていました。野草はツリフネソウ、ミゾソバが目立ち、バラ園の所では遊歩道にカリガネソウの大きな株があって、その花に**ホシホウジャク**が吸蜜に来ていました。観察園の周辺は梨の一大産地ですが、梨の収穫は既に終わっていました。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。